

金属労協 JCM 結成50周年記念レセプション（2014年9月2日）

相原康伸 金属労協議長 挨拶（要旨）

皆さんこんばんは。金属労協・JCMの結成50周年記念レセプションに大変ご多忙のところ、海外18カ国、29組織、43名もの同志のみなさん始め、このように多くの皆様方にご臨席賜りました。心より感謝申し上げるとともに光栄に存じます。

申し遅れましたが、私は、本日開催されました金属労協第53回定期大会におきまして、西原前議長の後任として、信任頂きました、相原と申します。浅沼新事務局長共々、どうぞ宜しくお願い致します。

本日は、連合本部より古賀会長、インダストリアル・グローバルユニオンのベルトホルト・フーバー会長、厚生労働省より村木事務次官、経団連からは、宮原副会長、民主党より海江田代表にそれぞれご臨席賜りました。拍手でお礼にかえたいと思います。

金属労協は、第18回オリンピック、いわゆる、東京オリンピックを5カ月後に控えた、1964年5月16日、4単産、2単組、47万人で産声をあげました。日本が成長を駆け上がっていく時代の真っ只中と言えます。

この間、金属労協は、国際労働運動の推進、金属産業に相応しい基本的労働条件の確立、政策制度課題の改革、改善、労働人材の育成などに取り組んで参りましたが、本日ここに、結成50周年を迎えることが出来たのは、連帯する国内外の多くの仲間の皆さん、関係する諸団体の皆様方のご支援の賜物です。心より感謝申し上げます。また、先人のご努力、ご尽力に改めて、敬意を表します。

一方で、グローバル化がもたらす、光と影のコントラストは益々際立っています。「Race to the Bottom（底辺に向けた競争）」というネガティブな側面から目をそらすことは許されません。

そうした中、IMFは、2012年6月、119年の歴史に幕をおろし、ICEM, ITGLWFと組織統合を果たし、結成された140カ国、5000万人からなる新生インダストリアル・グローバルユニオンには、世界の働く仲間から大きな期待が集まっています。JCMもその責任の一端を担って参りたいと思います。

本日は、金属労協を長年支えてこられた金属労協役員OBの皆様方にもお越しいただいております。是非とも、現役に対します叱咤を頂き、また、JCMの友情と連帯の輪を再確認いただければと存じます。限られた時間ではありますが、どうぞごゆっくりお過ごしください。有難うございました。



以上